

2. 過剰投与による副作用

4例は徐中で使用を中止していた。内1例は著明な高血圧、PRAの抑制がみられていた。3歳時高血圧を指摘され、3歳8ヶ月で中止している。文献的にも高血圧がみられた症例は6ヶ月以降であった。

3. 途中より投与が開始または再開された例

12例が徐中より治療開始または再開されていた。多くはPRAが高値で1例にcrisisの既応を認めた。Florinef投与によりPRAは抑制されていた。

4. Florinefの使用量及び経過観察の指標

(i) 3ヶ月未満 50~100 μ g/日 分2~3

(ii) 3ヶ月以上 25~75r/日 分2

a) 定期的にPRAの測定、高血圧、浮腫の有無等の臨床所見が必要である。

b) 先天性副腎形成不全、prader症候群では必要量はやや少なくてもよい。

3ヶ月未満では腎における反応性が低く、副腎皮質はfetal cortexであり、 3β -hydroxysteroid dehydrogenase活性が低いため食塩喪失症を来しやすい。高血圧もこの年齢での報告はなく多量使用による副作用は少ないと考えられる。

維持療法における経口食塩投与について

アンケート集計結果より

千葉大学小児科 新美 仁男
高柳 直子

I) 経口食塩投与期間

1) 塩喪失型 21-OHase 欠損: 51例中38例が何らかの期間食塩投与を受けていた。24例が生後2ヶ月以内に投与を開始されており、投与中止時期は表1の通りである。38例中1歳まで投与を受けていたものは36.8%、2歳までが55.3%であった。

2) 単純型: 2例とも食塩の投与はない。

3) リポイド過形成: 6例中4例が投与されており、2例は現在10歳と11歳で投与継続中。他の2例は生後1ヶ月と2ヶ月で投与が中止されている。

II) 経口食塩投与量

投与例44例中39例が1歳未満で投与を開始されており、初期投与量は0.3~5.0g/日と巾があった。内訳は表2の通りである。2.0g/日投与されていたものが、30.8%と最も多かった。投与量の多い例で血圧が記載されていたものは4.0g/日の1例だが、150/84、122/70と高めであった。

投与量は同一施設でもまちまちで、一定の傾向または方針は、現在の所ないようであった。食塩投与の中止に際し、ほとんどが漸減などせずに突然中断しているが、臨床的に問題はないようである。また5歳以後も投与を継続している例では、全例2g/日であった。

III) 尿中 Na 排泄量よりみた食塩投与の影響について

尿中 Na 排泄量は、食塩摂取量（食餌中および経口投与量）をよく反映すると考えられている。しかし尿中 Na 排泄量を測定してある症例はかなり少なかった。（図1）

1歳未満の経口食塩非投与例では健常小児とほぼ等しく、経口食塩投与例に比して尿中 Na 排泄量が少なかった。この事は、この年齢では食塩摂取量が少ないことを意味し、経口食塩投与は意義あるものと思われた。2歳以上では非投与例でも尿中 Na 排泄量からみると、健常小児に比して高食塩摂取の傾向が認められ、自然の普通食の中でバランスをとっているように思われた。

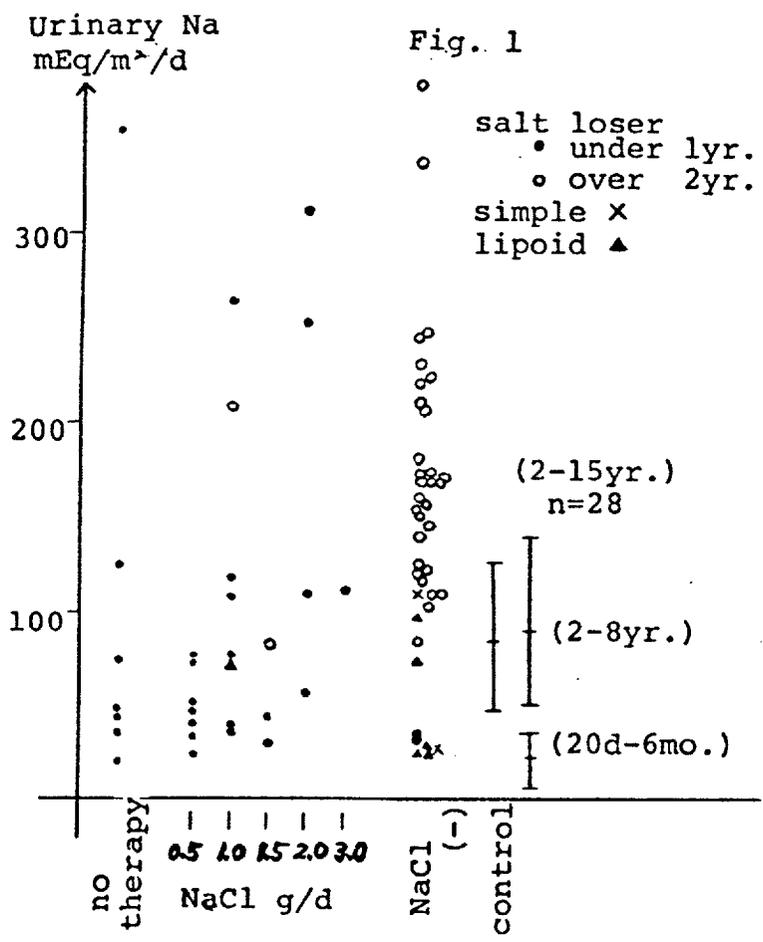
今後、臨床症状、血圧、詳細な検査データをもとに、経口食塩の投与期間、投与量、さらには経口食塩投与がコントロールに及ぼす影響などについて検討を加えることが望ましいと考える。

Table 1.

— 3 mo.	1	} 14 (36.8%)
— 6	8	
— 9	1	
— 12	4	} 21 (55.3%)
— 2 yr.	7	
— 3	4	} 29 (76.3%)
— 4	2	
— 5	2	
5yr.—	9	(23.7%)
total	38	(salt losing 21-OHlase def.)

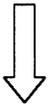
Table 2.

—0.9 g/day	8	(20.5%)	} (76.9%)
1.0	7		
1.5	3		
2.0	12	(30.8%)	
2.5	1		
3.0	6		
4.0	1		
5.0	1		
total	39		





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



)経口食塩投与期間

- 1)塩喪失型 21-OHase 欠損:51 例中 38 例が何らかの期間食塩投与を受けていた。24 例が生後 2 ヶ月以内に投与を開始されており,投与中止時期は表 1 の通りである。38 例中 1 歳まで投与を受けていたものは 36.8%,2 歳までが 55.3%であった。
- 2)単純型:2 例とも食塩の投与はない。
- 3)リポイド過形成:6 例中 4 例が投与されており,2 例は現在 10 歳と 11 歳で投与継続中。他の 2 例は生後 1 ヶ月と 2 ヶ月で投与が中止されている。